

## 編集後記

機関誌『陽明学』第九号（西郷南洲特集号）をお届けする。

巻頭に九州の上野日出刀氏、次いで、本学にも出講いただいている上智大の大島晃氏の玉稿を頂戴することができ、感謝に堪えない。三本目は当初の予定に変更があり、中根公雄氏（当研究所非常勤助手）に、短時日で間に合せていただいた。

特集部分に移って、久留米工大の山口宗之氏（九大名誉教授）と、本学の中村義氏（鄰居の東洋学研究所所長）の二本、期せずして日中両国同時代人の西郷南洲観が揃うこととなり、望外の幸せであった。続く、鹿児島南洲神社宮司、鶴田正義氏（二松学舎松苓会鹿児島支部長山本諭氏の紹介による）と、本学の寺山葛常氏の二本には、詩人としての、また書家としての南洲がそれぞれ活写され、これまた有難いことであった。汗牛充棟の南洲研究資料の扱いには、もとより息の長い研鑽が求められようが、此の度は如上の専家の寄稿を得て、『特集』の意義浅からぬものがあったと考

えている。末尾の筆者の論稿は、南洲思想資料の一端に、及ばずながら触れようとした、いわば試作である。

さらに、この号には、中国浙江省余姚市文物管理委员会、葉樹望氏の論稿と、別途、余姚市瑞雲楼・貴陽市陽明洞関連諸行事にかかわる岡田武彦氏・蔣慶氏の撰文を載せることができた。前者については、本学博士後期課程在籍の渡辺賢氏に翻訳を依頼した。後者については、本号「陽明学だより」を参照されたい。「陽明学だより」と言えば、毎号、福岡女子大の正田啓佑氏（当研究所客員研究員）を煩わせている。記して謝意を表する。

なお、一九九六平成八年四月より、当研究所は、顧問 小林日出夫氏、所長 筆者、主事 張明輝氏というメンバーで運営に当たっている。運営委員には、外に川久保広衛氏。大方のご指導、ご支援を切望する次第。

次号は、王竜溪特集ということで準備を進めている。過去、第五号で錢徳洪を特集して以来、中国の陽明学者として二人目となる。ご期待を乞う。

（松川）

陽明学（年一回発行）

第九号

平成九年三月三十一日

定価 一〇〇〇円

（本体九七一円）

送料 二四〇円

編集責任者

松川健二

発行責任者

小林日出夫

発行所

二松学舎大学陽明学研究所

東京都千代田区三番町六一一六

郵便番号 一〇二

電話 〇三―三三六三―六三六四

発売所

株式会社 明徳出版社

東京都新宿区新小川町八一二六

郵便番号 一六二

電話 〇三―三三六六―〇四〇一

FAX 〇三―三三六六―〇四〇三

振替 〇〇一九〇―七―五八六三四